

高等学校 芸術科（美術）学習指導案（高等学校 1 年生）

○月○日（○曜日）第○限 ○年○組（男子○○名，女子○○名 計○○名）

指導者 ○○○○ 印

教育実習生 ○○○○ 印

1. 題材 「形体と色彩の構成（平面構成）」

本題材は、学習指導要領「美術 I」における「A表現（2）デザイン」を指導するものである。

2. 題材設定の理由

- ①デザインの最も基礎的なレッスンとして、点、線、面など幾何学的な要素を用いた、二次元のスペースで種々の造形体験を得させる（いわゆる平面構成）。
- ②その基礎的なレッスンの中で、特にここでは、規則的に構成された原形をよりどころにし、それらに変化の工夫を与えることによって、別の新しい構成を生み出す手法を体得させる。
- ③形とともに配色に関しては、ここでは三属性に基づいた配色法と面積比の変化とによって、類似や対照の配色効果を生み、さらにそれぞれが、どのようなイメージ効果をもたらすか、それらの相関まで考えさせたい。
- ④これらの基礎的な造形訓練の積み重ねが、実生活でのさまざまな品々のデザインや芸術の各ジャンルの造形表現にも生かされうることを認識させる。

3. 指導上の工夫

- ①造形方法をあらかじめ提示して、合理的、典型的に進めていくことにより、よりいっそう多様な造形変化を生み出すことが可能であることを理解させる（告形の方法論の活用）。

4. 指導目標

- ①点、線、面それぞれを用いた構成練習を比較的容易に、しかも効果的に修得するために、その手法の一つを具体的に示し練習させる。
- ②この手法によって、できるだけ多くの構成のバリエーションを考えさせ、構成の原理との関係に触れながら、その要領を修得させる。
- ③配色の問題についても、その実習を通して、類似、対照の関係やレペティション、グラデーション、アクセントなどの諸原理との関係を理解させたい。

5. 題材の評価規準

観点	観点Ⅰ 知識・技能	観点Ⅱ 思考・判断・表現	観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・形などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、場所や造形的な特徴などを基に、全体のイメージでとらえることを理解する。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 ・目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

<p>学習活動における具体的評価規準</p>	<p>知 美的秩序や構成要素を感じ取り、その感情効果を理解し、全体のイメージでとらえることを理解する。</p> <p>技 色彩や形体が果たす効果や役割を理解し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。</p>	<p>発 点、線、面など幾何学的な要素などのイメージなどから主題を生み出し、形などが感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し、統一感などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
------------------------	--	--	---

6. 指導計画(全7時間)

時間	各時間の目標	学習活動	学習活動における具体的評価規準との関係
① 1	構成の美しさを考え、よりよく創造しようとする。	導入、構成手法の提示	観点Ⅲ 態鑑 について学習活動の観察によって評価する。
② 1 本時	美的秩序や構成要素を感じ取り、表現に生かす工夫をする。	アイデアスケッチ	<p>観点Ⅰ知 について観察とスケッチによって評価する。</p> <p>観点Ⅱ発 について観察とスケッチによって評価する。</p> <p>観点Ⅲ態表 について観察と提出されたスケッチを評価する。</p>
③ 1	材料や用具の生かし方などを工夫する	下描き	観点Ⅰ 技 について学習活動の観察によって評価する。
④ 3	色彩や形体の機能を考え、意図に応じて表現に生かす。	彩色	観点Ⅰ 技 について学習活動の観察によって評価する。
⑤ 1	いろいろな見方や感じ方や発想の仕方、知識等を学び取り、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わっている。	まとめ(鑑賞)	観点Ⅱ 鑑 について提出されたスケッチを評価する。

7. 本時の指導計画(2/7)

(1) 本時の目標

- ①多くの点や線を意図的に並べることにより、リズムカルな印象をもったパターンを構成させる。
- ②方眼紙を使用した練習法を体得させる。

(2) 本時の評価規準及び評価方法

観点Ⅰ「知識・技能」**知** について観察とスケッチによって評価する。

観点Ⅱ「思考・判断・表現」**発**について観察とスケッチによって評価する。

観点Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」**態表**について観察と提出されたスケッチを評価する。

(3) 本時の準備物

生徒：定規，コンパス，鉛筆

教師：方眼紙，参考資料（提示用図版など）

(4) 指導計画

時間	学習活動・指導過程	指導上の留意点	観嚙・評価規準・方法
1. 導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 方眼紙を配布する。 本時の学習内容とねらい、その方法について理解する。 方眼紙の利用の仕方を理解する。 参考作品を参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> あくまでも一つの練習法であり、ほかにもいろいろあることを知らせる。 方眼紙はスケッチ用紙として用いさせる。 	
2. 展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> 点はフリーハンド、線は定規を使い、方眼紙の線を頼りにスケッチをする。 ある方向への流れを考えさせたり、グラデーションのリズムを考えさせたりして、構成にある種の特徴が生まれるよう工夫しながらスケッチする。 	<ul style="list-style-type: none"> 点の形をいろいろ工夫させる。「点」と感じる形があることが大切なので、むやみに複雑な形はひかえさせる。 点にしる線にしる、ここではリズムを表現することが主眼なので、レペティション、グラデーション、プログレツションなどのリズムを生む手法を理解させておく必要がある。 線は、長さと間隔の取り方が主体となるが、それに太さの変化を考えさせてもよい。 	<p>観点Ⅲ態表について、学習活動の観察によって評価する。</p> <p>Cの生徒への指導の手だての例</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な形態から描かせて徐々に複雑な形態を描かせていく。 リズムの手法を図示しながら理解させる。
3. まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 多くのスケッチの中から、各自よいものを選ぶ。 次回の授業の予告 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士で意見交換させ、見る目を養わせる。 教師も見回ってそれを確かめ、不適當なものがあればチェックする。 アイデアスケッチを提出させる。 	<p>観点Ⅰ知と観点Ⅱ発について、提出されたスケッチを評価する。</p>